

株式会社ジェイコム東京北

放送番組審議会 議事録

平成 27 年度（2015 年度） 株式会社ジェイコム東京北 放送番組審議会は、
2016 年 3 月 29 日（水） 株式会社ジェイコム東京北 7 階大会議室で開催された。

<放送番組審議会委員>（五十音順）

ご 出 席

奥山 峰石 様	竹腰 里子 様
尾花 秀雄 様	根木 雅代 様
越野 充博 様	峯崎 優二 様

ご 欠 席

大前 孝太郎 様

次 第：

1. 開会
2. 放送事業者 株式会社ジェイコム東京北 事業状況の説明
3. コミュニティチャンネルの報告
4. 審議 質疑応答と意見交換
5. 閉会

事業者側から J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：会長

■二次利用のシステム化

委員

- ・番組を自由に再利用できる事が、地域密着の基本ではないかと考える。新築マンションのギャラリーや区役所内、商店街の店先といった所で地域に密着した番組、『デイリーニュース』や行政番組の二次利用が可能であれば、地域情報が何度も拡散できるのと同時に J:COM のプロモーション推進に繋がるメリットもある。統合後は全国規模の放送が可能となった事からも二次利用の必要性は高まっており、システム化の導入を検討頂きたい。
- ・以前より二次利用に関しては意見が出ており、是非ともお願いしたい。

事業者

- ・二次利用のシステム化は、肖像権等法律が絡むコンテンツもあり、整理し検討していきたい。今年度は地域プロデューサー・地域アナウンサーの擁立、取材件数を増加させるといった方面で、地域密着の具現化に取り組んできた。今後はサービス加入の有無を問わず、ネットやモバイル配信でコミュニティチャンネルが視聴できるシステムの構築も視野に入れ、競合他社との差別化を図り、J:COMのプレゼンス向上に努めて参りたい。
- ・加入者向けのサービスとなるが、次世代 STB やタブレット端末、携帯電話で番組が見られるシステムがある。また J:COM フリーオンデマンド (FOD) は、見たい時にいつでも番組を見ることができる。

■エリア統合

委員

- ・資料に「2016年1月から狭小化する（東京北を除く）」とあるが、統合によって東京北と板橋エリアのニュースが一緒に放送される事を意味しているのか。地元のニュースが半分になってしまう事にデメリットを感じている。
- ・住んでいるエリアによって見解が異なると思うが、別の地域のニュースが放送されると番組が見つらく、今後の改善に期待したい。

事業者

- ・既存 J:COM の板橋局はスタジオ設備がない為、東京北と板橋エリアのニュースを統合し放送する事となったが、取材回数自体は減らしておらず、ニュースの放送尺を短くする代わりにトピックスを増やすといった工夫を凝らし、偏りのない番組制作を心がけている。また、主要な情報はエリア別に放送を行っている。今年度より、災害情報の強制 L 字画面放送を開始したが、こちらは地域情報に特化しエリア別の放送を行っている。
- ・過去に板橋と練馬エリアのニュースを統合し放送していたが、結果を検証し見直しを図ったケースもある。状況に応じ改善して参りたい。また、北とぴあに設置しているテレビの有効活用やパブリックビューイング、オーロラビジョンといった大画面での放送も関係機関と協力し検討して参りたい。

■ドキュメンタリー番組の取り組み

委員

- ・地域密着チャンネルなのであれば、楽しいニュースのみを扱うのではなく、あまりスポットの当たらない「地域の老人ホームの現状」や「振り込め詐欺」といった社会問題を取り上げるなど、ドキュメンタリータッチな番組があってもよいのではないかと。
- ・ありきたりな注意喚起では現実味がなく、見る側の印象に残らない。実際に区民のインタ

ビューを取り入れるといった作り手の工夫が欲しい。

事業者

・区民のニーズに合った、より多くのニュースを放送したいという思いは常に持っており、今後とも情報収集に力を入れていきたいと考えている。

『デイリーニュース』では所轄の警察署員にご出演頂き、振り込め詐欺やひったくりの注意喚起に関する放送を行っている。

・警視庁からの情報は常に入手しており、「メールけいしちょう」の内容は、静止画にし、その日のうちに『デイリーニュース』内で放送している。

・社会に警鐘を鳴らす「きっかけ」となるような、番組作りの視点も持ちたいと考えている。

■プロモーション

委員 新番組や特番などの取り組みは、番組ガイド誌が届き、初めて知る機会が多く感じる。事前に情報共有頂く事で地域団体が協力できることもあり、時間軸を捉えてのプロモーション活動をお願いしたい。

事業者 コミュニティチャンネルの認知度はまだまだ低いと感じている。来年度はケーブルテレビで初の試みとなる「リオデジャネイロオリンピック」の放送を予定しており、J:COMの認知度を高めるチャンスと捉えており、さらにプロモーションを強化していきたい。

■番組の作り方

委員 毎年行われている大きなイベント、『北区花火会』や地域のお祭りは、見どころやおすすめスポットや時間帯、チケット購入法といった「プラスの情報」を盛り込んだ番組作りをお願いしたい。放送を録画保存しておき、翌年また見直すといった、「振り返って見る番組活用のニーズ」もある。

事業者 番組の振り返り活用も視野に入れた番組制作に取り組んで参りたい。

■番組のプロセス

委員 番組のプロセスについてお聞きしたい。どのくらい前から情報収集し、制作に移されているのか。

事業者 生中継を含めて特別番組は予算化し、年度計画に沿って進めている。コンテンツにより短いスパンのものから長期的にじっくり作り込む番組がある。ガイド誌掲載の校了に合わせ、早め早めの情報収集を行っているが、コンテンツの情報源や情報収集体制はまだ第一段階である。まずは何か情報が入った時にJ:COMを思い出して頂けるよう、努めて参りたい。

以上